住みよいたけし

住みよい武石をつくる会広報　第53号

2026年2月16日発行

事務所　武石地域総合センター内
TEL:0268-85-2511
https://www.s-takeshi.jp
印　刷　中澤印刷株式会社

戦後80年
私と戦争を語り継ぐ会

昨年12月21日(日)、住みよい武石をつくる会子育て教育文化部会は、武石地域総合センターコミュニティホールで「戦後80年　私と戦争を語り継ぐ会」を開催しました。会場には武石地域の住民や部会員など約50人が参集し、講演者の話に耳を傾けました。

はじめに、昨年7月に行われた「上田市広島平和学習訪問」に参加した村石さらさん(依田窪南部中学校3年)の参加報告がありました。平和記念公園を訪れて感じたことや被爆体験者のお話を聞いたことから、「ぜひ一度皆さんも広島を訪れて、その場の空気や声を感じ、ここで起きた事を、そして平和について自分自身で考えてほしい」と話されました。

次に「私と戦争」の語りでは、奥村森代さん(鳥屋)、樋沢こうさん(薮合)、及び竹内賢さん(七ヶ)を語り手にお願いして、戦争中の世の中の暮らしの状況や学校での状況など、私たちが知らない体験をお話しいただきました。

樋沢さんは、「戦争では多くの人が何も悪くないのに命を落として本当に残念だと思います。ああいう戦争はしてもらいたくないです」と戦争の悲惨さと平和のありがたさを訴えました。

参加者からは、「私たち戦争未体験者には怖さが何も分かりません。今日の体験談を引き継いで、次の世代に繋げなくてはいけないと思いました」との声がありました。

子育て教育文化部会副部会長の品川晃輔さんは、「今日聞いたことや感じたことを、私たち一人ひとりが家族や地域、そして次世代へ伝えていくことが平和を守るための一歩だと思います。この会が地域全体で平和について考えるきっかけとなることを願います」と参加者へのお礼と終わりの言葉を述べて会を閉じました。

この会の語りの内容や様子は、丸子テレビで2月に放送されましたが、3月中にも再放送の予定です。ぜひご覧ください。

【赤い羽根共同募金配分事業】「～よいお年を～年末お弁当配布」が行われる

昨年12月17日（水）、上田市社会福祉協議会武石地区センターでは、武石地区民生児童委員協議会のご協力をいただき、地域の75歳以上の独居高齢者103人の皆様に恒例の年末お弁当配布をしました。

当日は、地域の民生児童委員さんが各家庭を訪問し、「よいお年をお迎えください」とお声がけをしながら、直接手渡しでお配りしました。

（社会福祉協議会武石地区センター長　池田隆司）

子檀嶺神社の初詣 ～今年が良い年でありますように～

昨年の大晦日から元旦、子檀嶺神社にはたくさんの人たちが初詣に訪れ、各々の想いを込めて新年の祈願をしていました。今年は雪もなく、穏やかな年越しとなりましたが、真夜中の冷え込みは厳しく、訪れた人々は本殿前の広場の焚火にあたりながら新年の挨拶を交わしていました。

「冬灯会」子どもたちが創る光の世界 ～武石の夜空に輝け、冬の蛍～

1月20日（火）に大寒を迎えた後、上空には今期最強の寒波が居座り、日が落ちると足下から冷気がはい上がってきます。24日（土）夕方から開催された「冬灯会」は、オープニングで武石保育園児10名による「明日は晴れる」の元気な合唱により、幕開けとなりました。

イベント会場となった武石ともしび博物館には、武石保育園の園児が描いた絵付きペットボトルを用いたランタンや、武石小5年生が製作した見事な「竹灯籠」、丸子地域や長和町の8つの保育園児が製作した330個のランタンの力作も展示されました。ランタンや竹灯籠から暗闇の中に放たれた淡い光は幻想的な世界を創りだしていました。

また、館内ではあわゆき亭工房によるステンド＆ガラスアートの展示にもその美しさに眼を奪われました。

クイズラリー・ゲーム鬼退治（ボール投げ）などもイベント盛り上げに一役買ってくれました。

作品を出品したお子さんは自分の作品を見つけては、家族と会話が弾み盛り上がっている姿が印象に残りました。大勢の家族連れを中心に賑わった武石ともしび博物館一夜限りの催しは上田市と上田市教育委員会が主催し、上田市合併20周年記念事業として行われました。

武石十景看板設置　金ヶ崎の夜雨（よさめ）

昨年11月6日（木）、今回で9枚目となる案内看板「金ヶ崎の夜雨」を沖の県道脇休憩所に設置しました。以前に設置した武石八景「小山秋月」と「鳥屋の炊煙」の案内看板より10mほど西側の観光案内板の横ですので、合わせてご覧ください。

夕暮れの風しずまりて金ヶ崎
音もさやかに村雨ぞ降る

夕暮れに一時吹いた風がやみ
　金ヶ崎山を薄墨色にして　通り雨が降っている

（注）「金ケ崎」は、稲荷の信号がある切り通しの辺り。

第35回 たけし歴史さんぽ道

名勝「飛魚」のこと Ⅱ

郷土史家 児玉卓文

「飛魚」は景勝地として古くから里人に親しまれていたようです。

小山真夫さんが調査した昭和８年の報告書のスケッチ(下図)によれば、画面中央やや右の川中に岩が屹立(きつりつ)する場所を「飛魚」、右手の権兵衛川が依田川にたぎり落ちる早瀬を「仙が滝」、画面左手の流れの淀みを「仙が淵」と呼んだようです。

小山さんは自著『小県民譚集(ちいさがたみんたんしゅう)』(昭和８年)に、沖の赤羽三千義さんが語った次の伝説を収録しています。

村の庄屋の忘れ形見お仙は、母の手で育てられて年頃となりました。ある夏の日、お仙が飛魚の滝で涼みながら景色に見とれて夢見ごこちでいると、美しい少年が「お仙さん」と呼ぶので、はっと驚いて目を覚ませば少年の姿はありません。それからというものその少年が恋しくて毎日同じ時刻に滝に来ては、夢の中にその少年を迎えていましたが、眼をあければいないのでとうとう物思いに沈んで部屋にこもってしまいました。母は娘の心を察し、苦心の末に少年を見つけ出し夫婦の契りを結ばせました。しかし、幸せもつかの間、少年はお仙の母との間が思うようにいかず、とうとう家を出て行方知れずになりました。お仙は滝に行き、夢の中に愛しい人を見ようと眺めていると、西に傾いた陽の光を受けて滝つぼの中から夫の姿が浮き出しました。悦びの一瞬、お仙は思わず滝に身を投げ渦に飲まれてしまいました。いつしか里人は、滝を「仙が滝」、下流の淵を「仙が淵」と呼ぶようになりました。

享保13年(1728)上田藩松平氏第２代藩主となった忠愛(ただざね)は、元文２年(1737)５月１日武石村巡見のおりに飛魚を遊覧しました。

『殿様御出之節留書(とのさまおいでのせつとめがき)』(小山隆平家文書)に、次のように書かれています。

暮れに及び、沖中をお通り鳥羽下飛魚へお出で遊ばされ、もっとも宮にても御酒宴遊ばされ、角石をも少々お拾い遊ばされ、飛魚も少々お取り遊ばされ、ご機嫌よく御座候て、六ッ時(18時頃)にまかりなり、お提灯にて牛詰(沖入口)へお通り、御乗物(駕籠)にお召し、それよりお帰り遊ばされ候。

宮は大宮諏訪神社、角石(かどいし)はブセキです。ブセキは江戸期後半には石の収集家に広く知られ、「第３回歴史さんぽ道」で、越後高田藩中老の鈴木一保が上田の豪商万屋金兵衛に懇願した手紙を紹介しました。

「飛魚も少々取る」はアユかハヤでしょう。

小山真夫さんの『史蹟名勝天然記念物調査報告』には、次のようにも記されています。

随行の武士が歌でこれを風刺して、

日はたけし早くたてやといはぬ間に
かた飛魚でやどへこしごえ

時の過ぎるのは速い、村人に早く立てばよいと言われぬうちに機先を制して片飛びに走って、宿るべき城下に越すのが上策だと詠んだ。たけしは武石、たてやは立岩、飛魚はこの地、こしごえは腰越、皆この四近の地名で、秀句として上々の作である。

飛魚のスケッチ　小山真夫氏画(『史蹟名勝天然記念物調査報告　第拾四輯』)　彩色は筆者

武石を盛り上げる人やグループ紹介

武石の人・団体

大規模林野火災から1年

令和7年2月28日に武石上本入地籍で発生した林野火災から、間もなく1年が経過しようとしています。

この火災では、建物への被害はなかったものの、約60ヘクタールもの林野が焼失するという甚大な被害を及ぼしました。

この火災には、上田地域広域連合消防本部をはじめ、近隣の消防本部、近県からの消防防災ヘリや自衛隊ヘリ（延べ13機）による応援に加え、上田市消防団からは29分団中18の分団から４日間に渡り延べ555人の団員が出動し、懸命な消火活動にあたりました。

	2月28日		3月1日		3月2日		3月3日	
分　団	出動人員	出動車両	出動人員	出動車両	出動人員	出動車両	出動人員	出動車両
第 1	2名	1台	2名	1台	2名	1台		
第 8			1名	0台	5名	1台		
第10					7名	1台		
第12					7名	2台		
第13					5名	1台		
第14	4名	1台	5名	1台	5名	1台		
第15	10名	1台	12名	1台	17名	1台		
第16	7名	1台	5名	1台	5名	1台		
第17	3名	1台	4名	1台	7名	1台		
丸子第1	14名	1台	18名	2台	14名	3台		
丸子第2	11名	4台	4名	2台	9名	4台		
丸子第3	14名	3台	10名	2台	12名	2台		
丸子第4	17名	3台	22名	3台	17名	3台		
丸子第5	8名	1台	8名	2台	7名	1台		
丸子第6	6名	2台	13名	2台	15名	3台		
長			1名	0台				
武石東部	29名	5台	21名	5台	24名	4台	3名	1台
武石西部	25名	3台	31名	4台	22名	4台	15名	4台
本　部	15名	3台	16名	3台	18名	6台	1名	0台
計	**165名**	**30台**	**173名**	**30台**	**198名**	**40台**	**19名**	**5台**
	総出動人数　555名				**車両出動総数　105台**			

上田市消防団第8方面隊（武石東部・西部分団）

今回の武石上本入地籍での林野火災における活動を通じて、次の課題が明確になりました。

1.長時間の活動における課題

①長時間の消火活動が続いたため、団員の適切な休憩時間確保が困難でした。

②大規模火災時における、効果的な情報収集と共有の難しさを痛感しました。

2.困難な現場環境下での消火活動

①林野火災特有の急峻な地形では、ポンプ車などからの放水が届かない場所が多く発生しました。そのような場所では、団員が背負い式水のうを担ぎ、急斜面を移動しながらの消火活動を強いられ、肉体的にも大きな負担となりました。

3.交通管理の課題

①林野火災現場周辺の県道において、一般車両の駐車行為などにより交通渋滞が発生し、緊急車両の円滑な通行や地元住民の移動に支障が生じました。

林野火災注意報・警報について

令和７年２月から３月にかけて、岩手県大船渡市をはじめ日本各地で大規模な林野火災が多発し、甚大な被害が発生したことを踏まえ、令和８年１月１日から林野火災の予防を目的とした**「林野火災注意報・警報」**の運用が始まりました。

「林野火災注意報・警報」の発令時には、林野や林野への延焼危険がある場所での「火の使用の制限」が課せられます。

	林野火災注意報	林野火災警報
火の使用の制限	**努力義務**	**義務（罰則あり）**

例年１月から３月は空気が乾燥し田畑の野焼き等が行われるため、多くの火災が発生しています。

野焼きを含む火の取り扱いには十分注意をお願いいたします。

＊新入団員を募集しています＊

上田市消防団第８方面隊では災害等発生した際に一緒に活動していただける団員を募集しております。

近年は武石地域でも消防団員が減少傾向にあり、高齢化も進んでおります。消防団員の年齢層は幅広く、特に最近では女性が活躍する場も増えています。

消防団の活動に少しでも興味のある方は、消防団員またはお住いの自治会長さんまでご連絡をお願いいたします。